



上：緒方恵一郎さんの愛艇〈Nosari〉(パーカー 760)。海上係留している横浜ベイサイドマリーナのBバースには陸電設備がないが、発電機もエンジンも使わず、エアコンが利用できるのだ  
 右：外気温は36度を超えた取材当日、〈Nosari〉の船内はひんやりとした快適な空間となっていた。助手席の前に送風口を二つ設置している



発電機  
不要!

灼熱の  
環境にお別れ!

# DC12V仕様の マリンエアコンに注目

文=安藤 健(本誌) 写真=松本和久



取材艇が搭載していた「MA12000DC」(12,000BTU / DC12V仕様 / 海水ポンプ、リモコン付き / 価格470,000円 [工事費別])。幅480×高さ320×奥行280mmと非常にコンパクト。DTSマリンでは、ほかにDC24V仕様やAC115V仕様など、豊富なラインアップをそろえている

## エアコンが身近になった

尋常ではない暑さが続く、日本の夏。もはや「夏=マリンレジャーの季節」という常識は、通用しなくなっている。

とはいえ、夏だからこそやっぱりマイボートで海に出て、楽しい時間を過ごしたい。いや、「快適な時間」を過ごしたいというべきだろうか。

となると、やっぱりエアコンが欲しいところ。一般的なマリンエアコンは、AC115V(交流)の電源を利用する。発電機や陸電が必要になるケースが一般的だが、小型のボートの場合は設置ス

ペースがないことも多い。また、停泊中に発電機を使えば、どうしても音の問題は避けられない。

また、AC115Vの製品は陸電設備からも給電できるが、日本では給電側が100Vなので、性能を発揮できないことも多い。それに、陸電頼りのシステムの場合、海上ではエアコンが使えない。

そんな理由から、自艇へのマリンエアコンの設置をあきらめていた方に朗報! DTSマリンが取り扱っているDC12V仕様のマリンエアコンを紹介しよう。

発電機の搭載は不要、エンジンのオルタネーターからの給電だけでマリンエア

DTSマリン  
オンラインショップ



DTSマリン TEL: 03-6731-9382

コンが稼働する。大容量のバッテリーを搭載するスペースさえあればバッテリーでの長時間稼働もOK。エアコン本体もコンパクト設計で、水冷式だから室外機の設置も不要だ。

「私のヨットには発電機を積むスペースもありませんし、ホームポートに陸電設備もありません。ヨットを始めたばかりのころ、エアコンが使えないのが当たり前という状況を知って驚きました。そんななかDC電源を使用してなんとかエアコンが使えないかと考え、手ごろな価格で販売できるよう製品化しました」(DTSマリン代表/河合宣通さん)

取り扱いを始めてから数年で、すでに50台以上を導入したとのこと。たくさんのユーザーが暑い夏を快適に過ごしている。

## 簡単に設置が可能

横浜ベイサイドマリーナを拠点に、全長8.10メートルの小型ボート(パーカー760)で海を楽しむ緒方恵一郎さん。2022年の進水当初から、DTSマリンのDC12V仕様



メインキャビン左舷側のシートの下の狭い空間に、マリンエアコン本体(中央の白い機器)が収まっている。室外機も不要だ。左に見える青い機器はインバーター



エアコンが設置してあるシートの座面下には、電源供給経路の切り替えスイッチ(中央)や給電やバッテリー残量を確認するメーター(右奥)などを設置している



パウキャビン左舷側後方、ちょうど助手席の裏側の壁面にも送風口を設置。銀色のダクトを通して、本体から風が送られてくる。パウキャビンを使わないときは、この送風口は閉めている



175Wのソーラーパネル2枚をハウスの屋根に設置。晴れていれば、2日もあれば200Ahのバッテリーが満充電になっているので、まずは5時間連続でエアコンが使用できるという



リモコンも付属し、現在温度を確認したり、温度の設定ができる。家庭用と同じインバーター方式のコンプレッサーを採用しているので、設定温度に近づくにつれて省電力となる

のエアコンを導入している。

「私のバースには陸電設備がなく、この方法しかありませんでした。自艇のバッテリー(200Ah)からの給電で稼働させることができ、とても快適に過ごさせています」

工事は、本体、送風口、送風ダクトを取り付け、冷却水の給排水用のスルハルを二つ開けて海水ポンプを設置するという簡単なもの。本体もコンパクトだから、設置スペースに頭を悩ませる必要はない。また、緒方さんはバッテリーへの充電方法も工夫している。

「175Wのソーラーパネルを2枚設置し、全体の定格容量が350W。12V換算で、最大20～25Aくらいの電気を供給します。200Ahの一般的な鉛バッテリーを搭

載していますが、晴天時なら2日で満充電になり、バッテリーだけで約5時間エアコンを使うことが可能です」

陸電を使わず、静かで冷えたキャビンで過ごす時間は驚きでもあった。

「キャビン全体を冷やすというよりは、クルマのように、なるべく人に風が当たるような位置に送風口を設置しました(2カ所)。もう一つパウキャビンにも設置していますが、使わない送風口は閉めておけば、他の送風口の風が強くなります」

このエアコンはシンプルな構成も特徴だが、緒方さんはさらに給電システムを充実させ、三つの方法を切り替えている。

「スイッチを設置して、給電方法を切り替

えています。停泊中はバッテリーから、そして航行中はエンジンのオルタネーターから給電。加えて、陸電設備からAC100Vの電気を取り、コンバーターを介してDC12Vに変換し、エアコンが使えるようにもしています」

緒方さんは電気工事士の資格を取るほどの知識があったとはいえ、いろいろな方法を採用していくことで、より使い勝手がよくなったという。

既存のDC12Vの電源を使い、簡単に利用できるDC12V仕様のマリンエアコン。小さなボート、エンジンのオルタネーターが小さなヨットなど、マリンエアコンの搭載をあきらめていた方には、自信を持っておすすめしたい注目のアイテムだ。



こちらはアクソパー 28キャビンでの設置例。ご覧のように、エアコン本体(中央)とDC12Vのバッテリー(手前)というシンプルな構成で使えるのもポイントだ

## 全長30ftのヨットでの搭載例



「これまでに、25ftクラスくらいのヨットから設置例があります。当然、発電機を積むようなスペースはありませんが、ヨット用のエンジンの小さなオルタネーターでも、十分エアコンを利用することが可能です。例えば、海に出て機走している間にエアコンでキャビンを冷やしておいて、泊地に帰ってきたらバッテリー駆動に切り替えつつ、冷えた船内でワイ



ワイ楽しむなんていう具合に楽しんでいるお客さまが多いですね。設置工事も通常のマリンエアコンと同じで簡単です。弊社にて、全国各地の設置業者もご紹介いたします」(DTSマリン/河合宣通さん)